

拝啓 今年も早や6月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。今近所の公園では、あじさいがきれいに咲いています。あじさいは、薄い青色から濃い青色まで、日が経つにつれて、変化するようです。

今回は、小西芳之助先生の『コリント人への第一の手紙講解説教』からの引用の13回目です。今回の「エンカウンター」は、復活の奥義について書かれている箇所引用がほとんどになりましたが、9ページ、「置かれたる仕事は死ぬまで力を尽くしてやりたまえ」という項目には、次のように書かれています。

「私は伝道だけが「主のわざ」ではないと思います。内村先生は「私は40年間、幾千の人々に伝道、福音を説いたけれども、果たして信じる人は幾人か」と言われました。その原動力はこの「復活の希望」にありました。この頃、内村先生のご本が売れ出したそうがあります。私は、死ぬまで、たとい一人の信者が出なくとも、私はこの福音を述べます。君たちもまた、昇給がなくとも、誰一人認めてくれなくとも、置かれたる仕事は死ぬまで力を尽くしてやり給え。これが、教会に来られる人に対する私の勧めです。」

この一月に読んだ『一日一生』等の本から、感銘を受けた言葉を紹介します。

小西芳之助先生『主の御名を呼ぶ』6月2日

「キリスト教の救いは奥義である。神の神秘であり、隠された知恵である。神は、それを世の始まらぬ先から、我らの栄光のために、あらかじめ定めておかれたものである（コリント前書2章7節）。神の義（ロマ書3章21節）は奥義である。キリストの再臨、その時には栄化せしめられるのであるが、これも奥義である。（コリント前書5章52節）

人は聖霊によらずしてこれらの奥義を理解することは出来ない。その訳は、これらは聖霊によって判断されるべきであるから。（同2章14節）。しかし、神はこれらを聖霊により我らに啓示して下さった（同2章10節）。

故に、私は、聖霊を持てる人にこの奥義を伝えたい。未だ、聖霊を受けない人には説教したくない。その訳は、この奥義は、彼らには愚かなことであり、かつ、しばしば、彼らを躓かせて、求道心を妨げるからである。

神よ、我々すべてに聖霊を送りたまえ。」

新渡戸稲造先生『一日一言』6月9日

「今日は曇る今日は雨降ると、不平を並べ立てても空は晴れぬ。雨が降るなら、傘1本で我が行動は定まる。事に当たり、くよくよつぶやきて我が望みのかなうものなら、人生はねぼけ奴の現に過ぎぬ。ことを決するは断行である。断じて行えば鬼神も避く。」

松下幸之助先生『道をひらく』「104頁」

「長い一生のうちに 人はいくたびか
自分の将来を左右する岐路に
血のにじむ思いで 立たねばならない
ながい歴史のうちに 国もまた いくたびか
自らの行くすえを鋭く見きわめるべき

意義深い時期に みまわれる
緑ゆたかな国土 香り高い伝統と歴史
そこに培われた 民族のすぐれた素質
この日本の未来を いま静かに 見きわめたい」

内村鑑三先生『一日一生』5月17日

「いわゆる現世的宗教は宗教ではありません。来世を明らかにする故に宗教はことに人生に必要なのであります。ことにこのことを明らかにするがゆえに、キリスト教はことに必要なのであります。「キリスト死を滅ぼし、福音をもって（永遠の）生命と朽ちざることを明らかにせり」とあります。（テモテ後書 1.10）。キリストによりて来世は明らかになったのであります。彼によって私ども彼の弟子等は、今この世にあってなお希望の中に私どもの戦いを続けておるのであります。」

パークレー先生『一日一章』5月25日

「役に立つように己を形づくれ
壁の穴に会う石は道に捨てられはせぬ、
やがて運命が汝の丈を測り、いうであろう。
なんじは使いものになる、
わがためにこれをなせ。」

人生は始めから終わりまで我々を形成しようとしている。

まず両親が我々を形成する。教師が形成する。だが、なによりも人生経験が我々を形成する。人生経験はそのためにあるのである。

「神は万事を益となるようにして下さる」とパウロは言った（ローマ 8・28）災難と思われるようなことですらも、我々のためになるようにできているのである。」

カウマン先生『日の出に向かって』6月9日

「人生の行程を、美しい花で飾ろうとも、糸杉の小枝で覆いかけようとも、いずれにしても、変わる事のない主の御声が、変わり得ない真実さをもって響き渡るのです。「見よ、私は世の終わりまで、いつもあなた方とともにいるのである」。

神が私たちと共にいて下さるならば、私たちの人生は春の野のように花咲き、春の花のように馥郁と香りを放ち、そして6月の野原のように光輝に満ち溢れることでしょう。」

6月16日（木）本誌読者の佐藤昭夫さんと山の友人の島田公博さん、斎藤毅さんと一緒に、車で奥秩父の大弛峠まで行き、そこから登山して国師岳（2601m）に登って来ました。曇り空ではありましたが、富士山まで遠望でき、愉快でありました。

新型コロナがだいぶ下火になりましたが、引き続き注意する必要があります。マスク、手洗い、うがいなどはこれまで同様実行されて、十分ご注意下さるようお祈り申し上げます。

6月23日

山口周三

エンカウンター読者の各位